


「令和2年度 オープン&フリー衛星データ実証事業」 成果報告書(概要)

実証事業名	SHIOTAN - 衛星画像から潮目を特定し、イサダ漁の効率化をサポート	
実証チーム メンバー	衛星データ利用者	岩手県水産技術センター
	サービス提供者	株式会社星座 一般財団法人リモート・センシング技術センター
実証事業概要 (200字程度)	イサダは岩手県沿岸域では冬季から春季にかけて南下する親潮の前線域(潮目)に多く密集することで漁場が形成される。その為、漁業者は既にNOAAやTerra/Aquaの水温分布を参考にして漁場探索を行っている。衛星データの顕在化したニーズの強い層に対して、地上データを組み合わせた付加価値の高いアプリケーションを提供することで、2.16億円規模の売上げ、110億円以上の経済波及効果を目指し、宇宙利用産業と水産業の発展に貢献する。	

実証事業成果 (図表等を用いて自由に記載してください)

アプリケーション概要(使用データを含む)	実証方法・規模等
 <p>SHIOTAN (https://shiotan.jp) を、Webアプリケーションとして構築した。運用データには静止気象衛星ひまわり、分析データにはGCOM-C・Terra・HYCOMを用いた。</p>	<p>「SHIOTAN」アプリケーション開発を株式会社星座(代表)、衛星データの整備・分析を一般財団法人リモート・センシング技術センター、情報提供・実証協力を岩手県水産技術センターとし、岩手県の釜石・大船渡・宮古の周辺海域にてイサダ(ツノナシオキアミ)を対象に実証を行った。期間中においては、魚種や地域を絞ったが、衛星データの広域性を活かし、アプリケーションは全国規模の展開が可能になるように構築した。他地域・他魚種への取り組みも進めている。</p>

ビジネス化に向けた課題と今後の展望	まとめ
<p>データ項目(潮流や海中水温)の面で、ユーザー要求を満たしていないことが課題である。一方でデータ項目数を追加していくのみで差別化を図ることの限界もあり、今後は潮目に着目する中でより明確化・本質化されたニーズを満たすことによる高付加価値化を目指す。2021年4月から正式版を(有償)サービスインする。他地域や他魚種への展開を念頭に、初年度は1経営体あたり5,000円(税抜き)で150経営体への販売を試みつつ、さらなるビジネスモデルを検討している。販売を進めつつ情報を集め仮説検証を行う。</p>	<p>実証を経てチームとして大きな学びを得ることができた。無償衛星においても、その活用余地が残されていることを十分実感し、開発(IT)と研究(リモート・センシング)を融合し有効化するための技術的な知見を獲得した。一方で地域や業界の変革の難しさを再認識し、コロナ禍で現地へ赴けない苦労やもどかしさがあった。本件では実証を念頭に短期的な目線で行動してしまうこともあったが、長期的な目標のために実証事業をどう活用していくかを今後はしっかりと考えていきたい。</p>